2025 年 3 月期決算説明会文字起こし

株式会社アイリッジ

3917 東証グロース市場

企業情報はこちら >>>

紹介動画はこちら >>>

2025 年 5 月 16 日（金）

FISCO Ltd.
https://www.fisco.co.jp

株式会社アイリッジ
3917 東証グロース市場

2025 年 5 月 16 日（金）

目次

■決算を受けての FISCO アナリストコメント —— 01

■出演者 —— 02

■決算説明 —— 03

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

決算を受けての FISCO アナリストコメント

・2024 年 3 月期の営業赤字転落（上期における開発遅延案件に加え 、新プロダクト「APPBOX」に係る先行投資が影響）から一転、2025 年 3 月期は営業利益で黒字転換。

・ディップと新たな DX サービスを共同で創出するための資本業務提携も進み始め、2026 年 3 月期は通期で寄与する見込みと、利益の再拡大基調が確認できた。

・2027 年 3 月期はオーガニック成長だけで調整後営業利益 5 億円以上が計画されており、実現の確度が上がるとともに、時価総額で約 38 億円は修正される可能性を感じる。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

出演者

株式会社アイリッジ
代表取締役社長

小田　健太郎様

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

決算説明

皆様、こんにちは。株式会社アイリッジ代表取締役社長の小田健太郎です。

本日は弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

さっそく本日開示した決算説明資料に沿ってご説明いたします。まずは通期決算の業績について、続いて 2026 年 3 月期以降の事業計画について説明します。

2025 年 3 月期の通期業績については、売上高および調整後営業利益が、2 月に開示した修正業績見通しを上回る結果となりました。今期は既存取引先との取引拡大を軸に、複数の資本業務提携を実施しました。また、下期からは EX-DX 事業が業績に寄与しています。なお、EX とは「エンプロイー・エクスペリエンス」の略で、従業員満足度を高めるためのソリューションです。中期経営計画の初年度として、おおむね計画通りに進捗しました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社アイリッジ
3917 東証グロース市場

2025 年 5 月 16 日（金）

決算説明

2026 年 3 月期の業績見通しおよび、連結子会社であるフィノバレーの株式譲渡については、この後に説明します。

25/3期通期 決算概要

売上高は前年同期比17.4%の増収、調整後営業利益※は売上高の増収及び粗利率の改善等により前年同期比269百万円増となる259百万円で着地。25/3期4Q単独では期末賞与や来期以降の大型案件に備えた一過性費用を計上。

(百万円)	24/3期 連結 通期	24/3期 連結 前年同期比	25/3期 連結 通期	25/3期 連結 前年同期比	（ご参考）25/3期 4Q単独	（ご参考）25/3期 前年同期比
売上高	**5,712**	**+5.4%**	**6,708**	**+17.4%**	**2,031**	**+9.0%**
売上総利益	**1,747**	**-12.8%**	**2,149**	**+23.0%**	**623**	**-13.6%**
売上総利益率	30.6%	-6.4pt	32.0%	+1.5pt	30.7%	-8.1pt
調整後営業利益	-10	—	259	—	82	-73.1%
調整後営業利益率	—	—	3.8%	—	4.1%	-10.9pt
経常利益	-87	—	208	—	67	-74.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	-1,156	—	-10	—	-86	—

※調整後営業利益＝営業利益＋株式報酬費用＋M&Aにより生じた無形資産の償却費用＋その他一時費用。

続いて、2025 年 3 月期の決算概要です。連結売上高は前年比 17.4% 増収の 67 億 800 万円、調整後営業利益は 2 億 5,900 万円となりました。

第 4 四半期単独では、売上高は前年同期比 9% 増収となりました。ただし、売上原価および販売管理費において、期末賞与や翌期以降の大型案件に備えた一過性の費用を計上したことにより調整後営業利益は前年同期比で減少しました。

2025年3月期通期業績予想との差異について（特別損失の計上）

売上高～経常利益は直近予想を上回って着地。なお、特別損失として、連結子会社である株式会社プラグインに係るのれん等の減損損失を117百万円計上したこと等により、当期純利益としては予想を下回って着地。

(百万円)	24/3期 連結 通期実績	25/3期 連結 直近予想 (A)	25/3期 連結 通期実績 (B)	25/3期 連結 進捗率 (B/A)
売上高	5,712	6,500	6,708	103.2%
調整後営業利益	-10	240	259	107.9%
営業利益	-91	200	219	109.5%
経常利益	-87	190	208	109.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	-1,156	120	-10	—

業績予想との比較では、売上高から経常利益までの各項目において、直近の予想を上回る着地となりました。一方で、子会社であるプラグインに関してのれんの減損損失を認識し、特別損失として計上しました。これにより、当期純利益は直近の予想を下回る結果となりました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

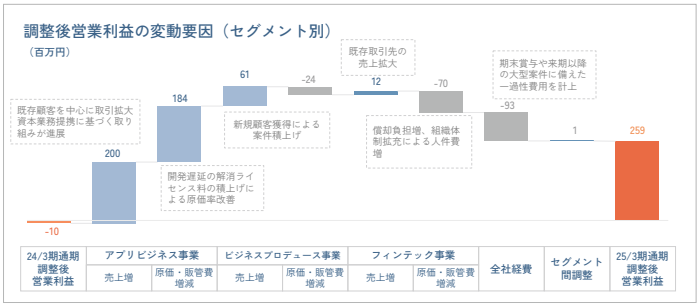
株式会社アイリッジ
3917 東証グロース市場

2025 年 5 月 16 日（金）

決算説明

調整後営業利益の変動要因

25/3期通期の調整後営業利益は前期比+269百万円と大幅に改善。アプリビジネス事業においては、既存取引先を中心に取引が順調に拡大し、資本業務提携に基づく取り組みも進捗。ビジネスプロデュース事業も順調に立ち上がっており、新規顧客の獲得が進展。25/3期4Qにおいて期末賞与や来期以降の大型案件に備えた一過性費用を計上。



調整後営業利益は前期比で 2 億 6,900 万円増加し、2 億 5,900 万円となりました。主な要因は、アプリビジネス事業において既存取引先を中心に取引が順調に拡大したこと、また資本業務提携に基づく取り組みが進捗したことによるものです。

セグメント別実績の概況

全てのセグメントにおいて増収を達成。
調整後営業利益においてはアプリビジネス事業が前年同期比+103.3%と堅調に推移。フィンテック事業については償却負担の増加、組織体制の拡充による人件費の増加等の影響により、前年同期比-36.9%の減益。

	（百万円）	24/3期	25/3期		（ご参考）	
		通期	通期	前年同期比	4Q単独	前年同期比
売上高	連結	5,712	6,708	+17.4%	2,031	+9.0%
	アプリビジネス事業	3,608	4,418	+22.4%	1,367	+27.5%
	ビジネスプロデュース事業	1,505	1,672	+11.1%	436	-13.3%
	フィンテック事業	601	623	+3.7%	231	-19.4%
	調整額	-4	-6	—	-4	—
調整後営業利益	連結	-10	259	—	82	—
	アプリビジネス事業	372	756	+103.3%	195	-18.4%
	ビジネスプロデュース事業	107	143	+34.1%	43	-52.2%
	フィンテック事業	157	99	-36.9%	52	-54.0%
	全社経費	-666	-760	—	-214	—
	調整額	18	19	—	4	—

セグメント別の業績については、全セグメントにおいて増収となりました。

利益面では、アプリビジネス事業が前期比 103.3% の増益となった一方で、フィンテック事業はソフトウェア償却費の増加や、組織体制の拡充に伴う人件費の増加により、前期比 36.9% の減益となりました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

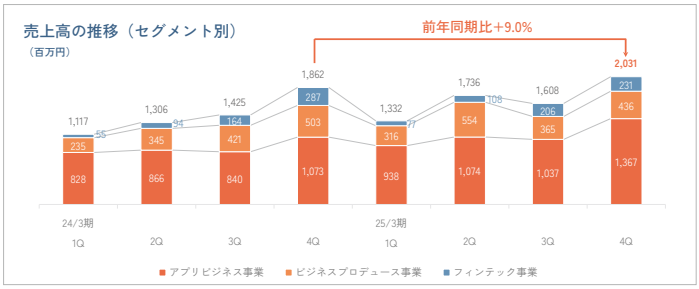
株式会社アイリッジ
3917 東証グロース市場

2025 年 5 月 16 日（金）

決算説明

売上高の推移(セグメント別)

25/3期4Q単独の売上高は前年同期比+9.0%。
アプリビジネス事業において、既存取引先を中心に取引が順調に拡大していることに加え、戦略的パートナーシップの取り組みを推進しており、下期よりEX-DX事業による業績寄与が開始。

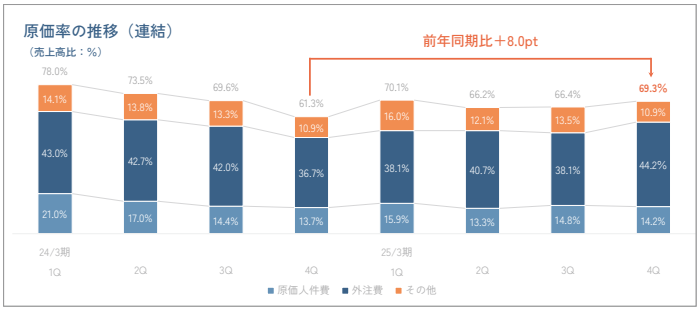


※上記の各事業別の売上高にはセグメント間の内部取引に係る金額及びセグメント内の調整額を含んでいる。

売上高については、第 4 四半期において前年同期比 9% の増収となりました。アプリビジネス事業では、戦略的パートナーシップに基づく取り組みが順調に進捗しており、特に下期からは EX-DX 事業による収益が寄与しています。

原価率の推移（連結）

25/3期4Q単独の原価率は、期末賞与や来期以降の大型案件に備えた一過性費用を計上し、前年同期比で+8.0ptとなる69.3%を計上。



原価率については、第 4 四半期に 69.3% となり、前年同期比で上昇しましたが、これは期末賞与の計上などによる一過性の要因です。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

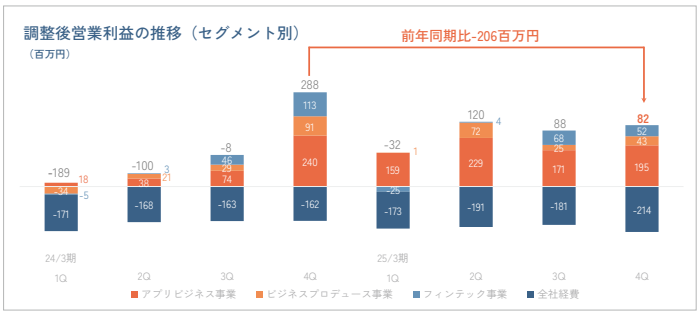
株式会社アイリッジ
3917 東証グロース市場

2025 年 5 月 16 日（金）

決算説明

調整後営業利益の推移（セグメント別）

25/3期4Q単独の調整後営業利益は、期末賞与や来期以降の大型案件に備えた一過性費用を計上し、前年同期比で-206百万円の減益。

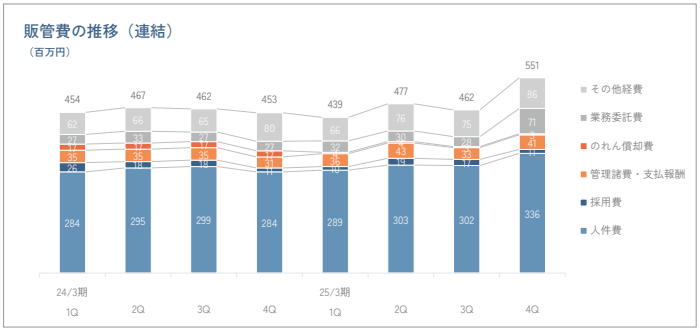


※上記の各事業別の調整後営業利益にはセグメント間の内部取引に係る金額及びセグメント内の調整額を含んでいる。

調整後営業利益は、第 4 四半期単独では期末賞与の計上に伴う原価増により、前年同期比では減少しましたが、8,200 万円を計上し、第 3 四半期と同水準を維持しています。

販売管理費の推移（連結）

25/3期4Q単独の販売管理費は、期末賞与や来期以降の大型案件に備えた一過性費用を計上し費用が増加。

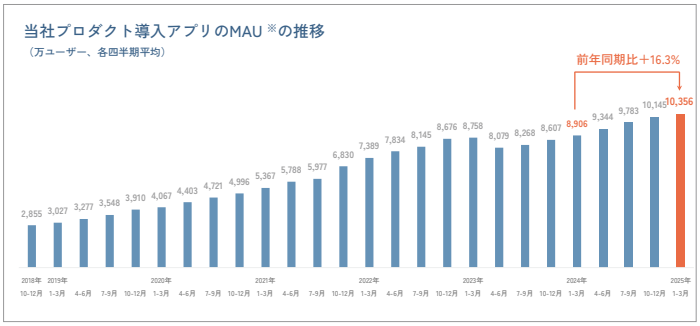


販売管理費については、第 4 四半期において期末賞与や来期以降の大型案件に備えた一過性の費用を計上したことにより増加しました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

当社プロダクト導入アプリのMAUの推移

当社プロダクト導入アプリのMAUは 1 億を突破、前年同期比＋16.3％と堅調に推移。



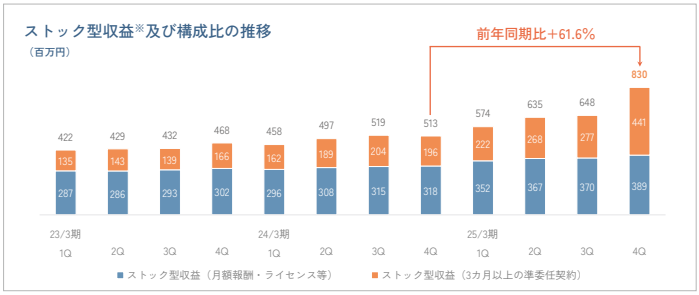
※ MAU(Monthly Active Users)は当社プロダクト導入アプリを月に1回以上起動しているユーザー数を集計(一部推計を含む)。

続いて、当社の重要指標について説明します。

当社プロダクトを導入しているスマートフォンアプリを月に 1 回以上起動しているユーザー（MAU）数は、1 月から 3 月までの月平均で 1 億 356 万ユーザーとなり、引き続き順調に推移しています。

ストック型収益の推移

ストック型収益は前年同期比＋61.6％の増収。業務提携の取り組みが進捗し、EX-DX事業関連の収益が寄与を開始。ライセンス等の収入も順調に推移。



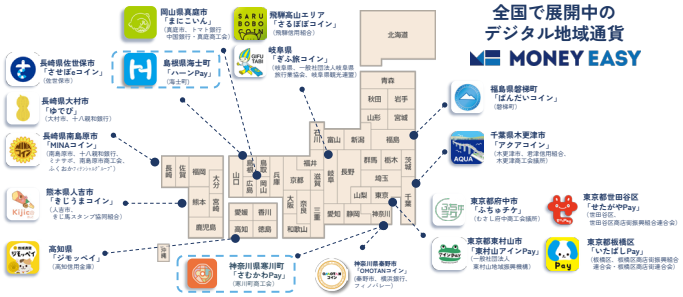
※3カ月以上の準委任契約及び月額報酬・ライセンス等(APPBOXなどのサービス利用料やアプリのシステム保守料等)をストック型収益として分類。
※ストック型収益にはフィンテック事業によるものを含まない。

次に、ストック型収益についてです。前年同期比で 61.6% の増収となり、順調に推移しています。資本業務提携の取り組みが進展し、EX-DX 事業関連の継続的な契約形態による開発支援案件が増加したことが、ストック型収益の積み上げに寄与しました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

フィンテック事業：デジタル地域通貨プラットフォーム「MoneyEasy」

フィンテック事業では、4Qより神奈川県寒川町「さむかわPay」の新規導入を支援。島根県海士町「ハーンPay」においては普及促進に向け海士町・商工会・観光協会との4者協定を締結。



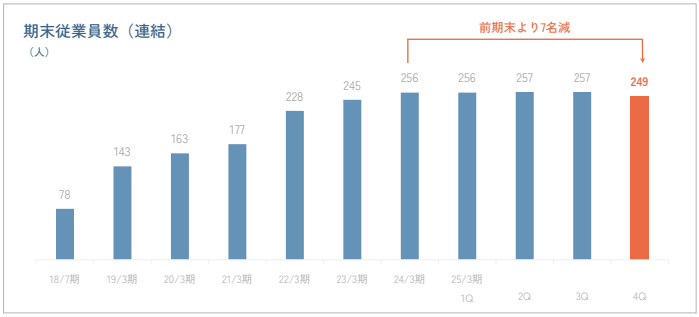
※　フィンテック事業を営む株式会社フィノバレーについては、2025年5月9日現在、TIS株式会社との間で同社の全株式を譲渡する基本合意書を締結しており、2025年6月に株式譲渡を予定しています。

フィンテック事業では、第 4 四半期に神奈川県寒川町の新規導入を支援したほか、島根県海士町において「ハーン Pay」の普及促進を目的とした 4 社協定を締結しました。

以上が、通期決算業績の概要となります。なお、（P16、P17 の）四半期ごとの推移表および貸借対照表は参考資料として掲載しており、説明は省略します。

（ご参考）従業員数の推移

連結従業員数は前期末から7名減となる249名。アプリ開発案件の引合いは継続して強く、引き続きプロジェクトマネージャーを中心とした採用の強化を図る。

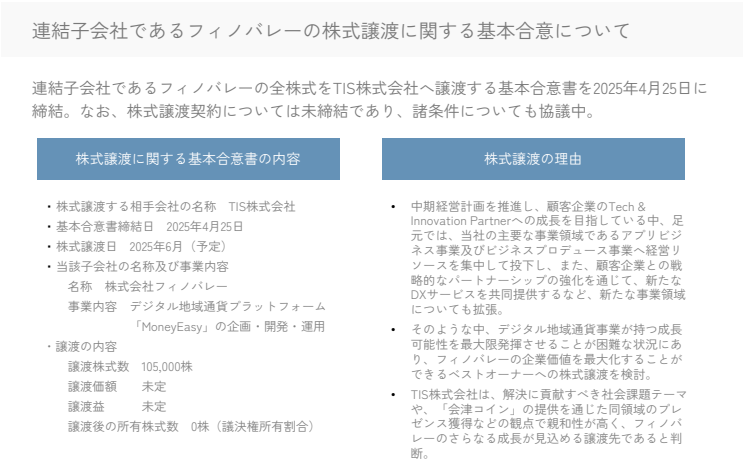


従業員の推移については、3 月末時点の連結従業員数は 249 名で、前期末から 7 名の減少となりました。（P19 から P21 は）1 月以降に当社が発表したニュースリリースの一覧ですが、個別の紹介は省略しますので、参考資料としてご確認ください。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

それでは続いて、主な経営事業トピックスを紹介します。個々の取り組み状況の詳細は、こちらにまとめています。

全体として、中期経営計画で掲げた成長戦略に関する 2025 年 3 月期の取り組みは、おおむね順調に推移しています。（P24）以降のページは、2025 年 3 月期の取り組み内容を振り返る参考資料となりますが、時間の都合により個別の説明は省略します。

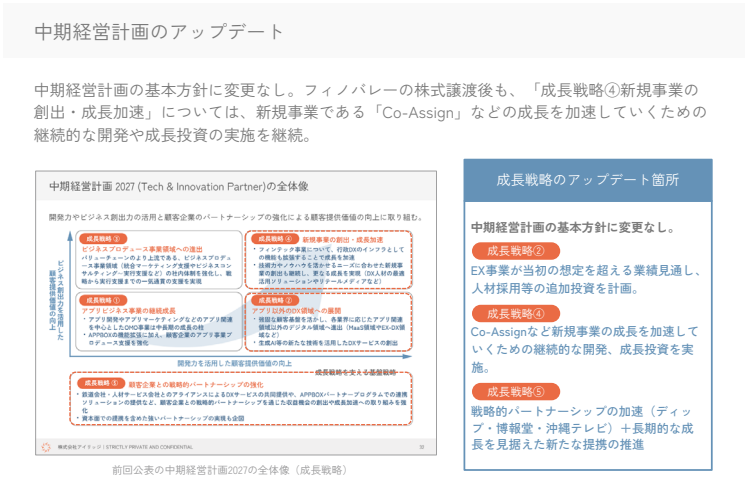


（P31 まで）少々ページを飛ばして、続いて今後の成長戦略および事業計画について説明します。

まず、今年 4 月 25 日に、フィンテック事業を営む連結子会社フィノバレーの全株式の譲渡に向け、TIS 株式会社と基本合意書を締結しました。今後のスケジュールとしては、5 月中に株式譲渡契約を締結し、6 月中に株式引渡しを行う予定です。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

今回の譲渡に伴い、一定の特別利益の計上を見込んでいますが、譲渡金額などの詳細な条件については、本日時点で協議中です。この株式譲渡がもたらす影響について説明します。



前回公表の中期経営計画2027の全体像（成長戦略）

中期経営計画に関しては、株式譲渡を実施するものの、基本方針に変更はありません。これまで成長戦略の一環として掲げていた「フィンテック事業の成長加速」については、足元の状況を踏まえ、一部記載をアップデートしています。具体的には、新規事業の取り組みを引き続き推進するとともに、新規事業である「Co-Assign」などの成長を加速させるため、継続的な開発への取り組みや成長投資を継続します。加えて、現在好調に推移している EX-DX 事業への人材採用など、追加的な投資も計画しています。さらに、長期的な成長を見据えた新たな戦略的パートナーシップの推進も予定しています。

なお、業績目標については変更していません。今回の株式譲渡によりフィンテック事業は連結業績に含まれなくなりますが、足元で順調に拡大している EX-DX 事業など、DX 領域の成長が見込まれていることから、掲げている業績目標は変更せずに取り組みを進めていきます。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

決算説明

ここから先（P34 から P47）は、2024 年 5 月に公開した中期経営計画の策定背景および成長戦略に関する再掲となるため、説明は省略します。先ほどご説明したとおり、フィンテック事業に関する記載や足元の取り組み状況などを踏まえ、一部内容を見直し、修正している箇所がありますので、ご参考ください。

2026年3月期連結業績の見通し

売上高は前年同期比+18.3%※の7,200百万円、調整後営業利益は前年同期比+88.7%※の300百万円を目指す。アプリビジネス事業において、ディップとのEX-DX領域の取り組みを加速させるほか、採用強化による大幅な人員増を計画。ビジネスプロデュース事業は沖縄テレビとの連携強化等さらなる取り組み拡大を計画。当期純利益については、連結子会社であるフィノバレーの株式譲渡による特別利益計上を見込むが、譲渡価額等が未確定のため、現時点では未定。

（百万円）	25/3期連結		26/3期連結		
	通期実績 (A)	フィノバレー除く実績 (B)	通期見通し (C)	前年同期比 (C/A-1)	フィノバレー除く前年同期比 (C/B-1)
売上高	6,708	6,084	7,200	+7.3%	+18.3%
調整後営業利益	259	159	300	+15.8%	+88.7%
営業利益	219	124	270	+23.2%	+117.7%
経常利益	208		260	+25.0%	
親会社株主に帰属する当期純利益	-10		未定	—	

※ フィノバレーを除く成長率を示しています。

2026 年 3 月期の業績見通し（P48）は、売上高 72 億円、調整後営業利益 3 億円を見込んでいます。フィノバレーを除いた 2025 年 3 月期の連結実績との比較では、売上高は 18.3% 増、調整後営業利益は 88.7% 増となる計画です。2026 年 3 月期は、EX-DX 事業の取り組みを加速させるほか、採用強化による大幅な人員増を計画しています。また、ビジネスプロデュース事業においては、沖縄テレビとの連携を強化し、さらなる取り組みの拡大を進めていく予定です。

なお、当期純利益については、子会社株式の譲渡価格が現時点で未確定であるため、未定としています。

2025 年 3 月期通期決算に関する説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■
〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3
株式会社フィスコ
電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）
メールアドレス：support@fisco.co.jp